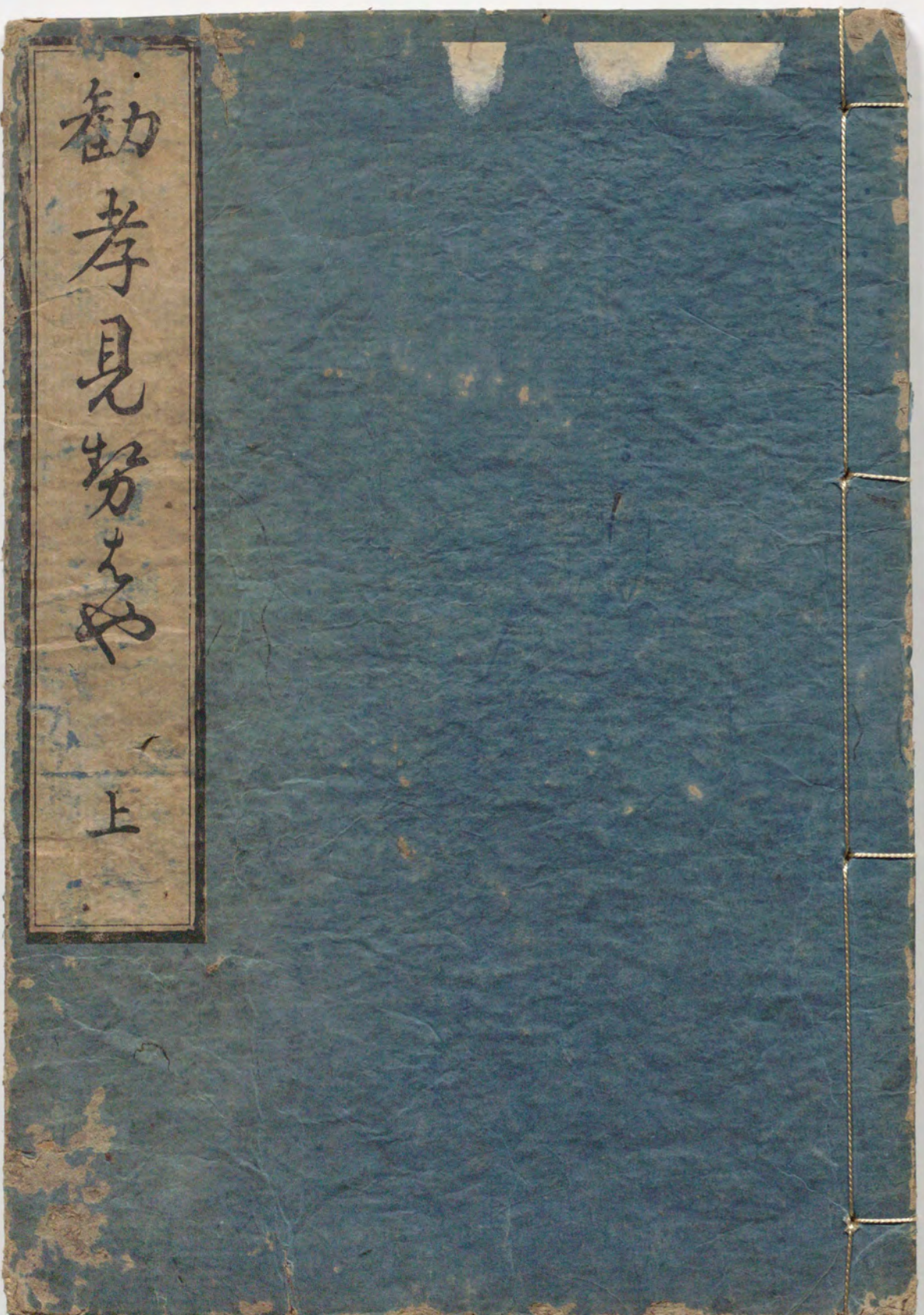
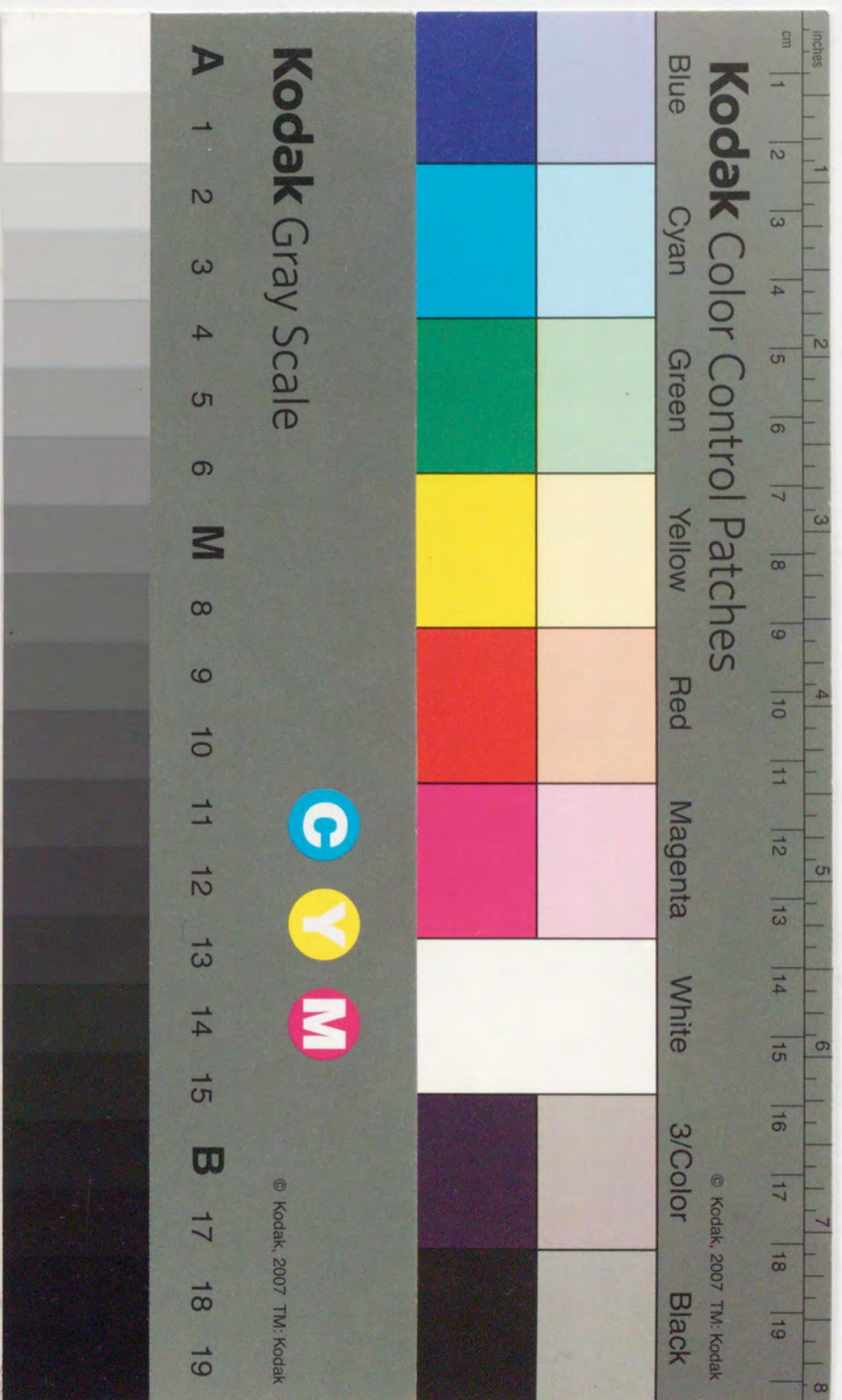






哀ニ父母生我
 助勞欲報之德
 昊天罔極



勸孝篇

見せばや

繪入

此孝行はるる親小孝
 るれ月利なるともあり
 おうくはしおしる





傳曰勿以惡小而為之さうしてあつちのちのちをきかぬ一記
 あらふふくしてふねふ
 どれなりともみまこと
 あつちとある有織乃惡と
 自やうやゆせハ塵がつまり
 てわーびさの山乃如き殃哉
 隙とや惡と聞てハ聲のこ
 とぞともいふ一欠らけり



勿さうして善せんの小こ而不を為するともぞ
 量きくら乃のひろさ哉や誇うして小こに
 若わかハせぬとつハ大おほかなけ過あやさ
 終うす身み若わかと行いへども若わかハ終うすた
 ぬものなり一日いちにち惡あくと行いハ惡あくお
 のづゝ餘あまりあり天道てんどうとつゝ
 ふとむむいれちひあり若わか
 と入いてハ渴かわそらぐやとあり

邪佞する人と交さば雪をど
 黒池くちらこびや融く
 水もさてもさるる其色ハ
 くらく汚てもされやぬハ
 あぬとらうおもへ海に
 譬喻うすわなうとも
 何れ人しちちうづ
 ばうづ



端方を親しめば重爐と
 てし其物住け爐へ炭
 とけがきく化て灰ふ
 がきども其香乃るや
 ちり古きく
 善人としりばこもに
 るさかき麻の中なる
 まんじやも

彌勒佛勸孝偈

堂上有佛二尊惱憾世人不識
 不用金彩裝成非是檀香彫刻
 即今現在爹娘便是釋迦彌勒
 若能供養得他何用別作功德

才德も

孝行もある

人より

親より孝

いふは

いふは



叙
い、海あゝ人あゝ努ま
浪あゝみみゝゝ何し教
艸乃ゝあゝ棟をいゝはし
牛も汗ゝいゝ車の道とだゝふ
あゝ姐人ぢゝゝあゝ父母を

愛しゝもゝ思ゝふあゝ其
他百行ゝ麻ゝはゝまゝ生
の露うちゝゝい塵ゝゝて
彼土の王氏が勤孝篇
といゝふゝゝまゝしゝ
ゝゝと寸翁あゝゝまゝ夫
世ゝ行ゝ国字鮮なゝゝと
を

方ふ文字と圓うす處もあて
平ふ言て直ふ書うふも筆を
顧と共にもいへもせぬ規矩準繩
少ハ出来よに教誨とけ寛急至
極ふまでたとい一言半句も讀人の
欠伸お申る笑ふやれやる所

ほよ出て過を改むる此種もあ
バ我ぐうううや山の神とて
おふ面う皮とる浦は北みけへ
々々もあう寸う葉丸筆の片
ううもや夢中の吟嘯とて
うあまういもより糞土と傳り

朽る人 吾があつちえふは
石佛の液雨はつや
容しを折ふし破窓おあけふ
毫を傾くも念言やより
合壁乃人顔にて翁ふん
てり

自餘居士善應識

唐王中書剛勸孝篇 上

あまろかは藻すむ蟲とひきあひ起て
歩けく人といふもの木れ岐々
もれをたぐ水の中より涌出する
てもねーさて高賈人の僅々
子孫をまゝても主願さるる
少く尊敬せりと貨賣もて
なり

それ況や身體髪膚とて頂心く
 脚甲まで我軀と全ぢりひ且ふ父
 母が千方苦若と晨夕此食も養やと
 まふまづたそは人まゝ生活やうに
 あそそいひにやうばう言はせ
 もせぬ須弥滄海に如き大恩報して
 とつちをあり又昊天罔極ともつ泣
 うぬも眼を閉く勸孝篇とよむべし

世有不孝子
 浮生空碌々

父母孝行して將來がよいものこれ
 論ふる人たはものせひあぬ
 あつりまゑもちゆゑの孝道を萬
 善百行としてせうゆゑふいふ行
 ひの根本也父子父をたへくおろ
 み孝りよせ世ふまぢりもれう藿

麥乃花の咲けも己ごとく中々あり
中々人の孝行も何と云ふも中々
あり孝ハ孝なりふ孝ハ變なりそれふ
何ぞや世ふ不孝なるも何と云ふ今勸孝
篇ふとく知るるなるを浮生と云ふね
たまふとくや次空に恩と云ふ寸磔
といふと用ふと云ふ石のぶくにて
路傍ふみち行人乃慈母なるを孝行

曰の杵もうめ穀ふーなり

不念父母恩 何殊生枯木

念乃字は義ハ心ハ思ふと時ハ刻と云ふ
うやなり父母乃子也おもふが其如あり
それ恩の深き故念ふと云ふなり人ハ
木乃枯るると云ふたか一般と云ふ枯るぬ
木乃花さく春時と云ふ花咲くは實

乃秋節と實と一是天地の約
束あてりとも減るに意なく
うすや母減念のすなり死人
似たり枯木れ如くなり

百骸未成人 十月居母腹

百骸と人乃軀ハ骨格经络血液蔵府
曲節屈伸氣息視聽言動之

かけともはくされぬ稲田黙談子作田近江
も跣で小ける百れ奇く妙く乃機関それ
器械のそらぬうち可中にも三百日賃
房賃もかりに母の腹小居して大後害
ハふすてきなり

渴飲母之血 饑餐母之肉

母乃腹中に居る而己うへ腹中ても



乳とけむ壁へ本頭が我身死殺して其肉
と儼者ふらへ養ふてわく一般もの也
甚ーがずや

見身將欲生 母身如刀戮

十月乃間をこぞ成偃して卧つてハ
あゝぬイヤヤハ禁忌ぢやれと首い
物ふらもねるべ安し眠るふもあ

む父母の劬苦いふもなかりサア産れけつ
るて一時二時或ハ半日終る一日三日も痛
苦ーじとカと母の才と戮がごとく
なり其をえてわ父の思ぢやうやう
このあど痛めりみは欠刈る蛋下れ
管屋も雲の上と費思ハ日ーこぞ
妻りつゝ後ハ娼樓に舊債を由寸人
有まども子成るけり後ハ父母れ恩を

識るものもさる鮮

父為母悲辛 妻對夫啼哭

其時又臨ふいと急ふあつて来て父と親
族比隣と呼あつて餅師はどてやて
あつて即今さやうお候視ふとされと
いふやま穩婆を末曾計て煮て食
ひて二面とてくはうはくさう寸母

と涙は呉竹もいゝだるぞと苦痛とを思
ふらふも思ひあはれや

惟恐生一産時 身為鬼眷属

右乃就居のたとれ如くもうしてハ僑
戸かして正戸とれ母ハ鬼比眷属とて
出さぬのからま入せうと志すてぬなり

一旦見兒面

母命喜再續

冥府へ半分まで入でわらうらまに
一旦兒乃面を見まう其祓あやや
若痛を忘れ甦る意うて生る兒
珠の如く玉れも再び續ぐこと成る

自是慈母心

日夜勤撫鞠

慈母とて見とひとすにありけい兒のむ
をも理とて我方を捨て慈然と垂
成仏も神をも譬へるこそ日夜の勤
撫鞠とてふてさすまうや疳ハ痰ま
いう風ハ感ハせしとれくれ角うつ
れも兒を忘るいすもなり顔て我
がと忘るて母子是同一體あふ慈母
ふあづや

母^{ハハ}卧^ウ濕^{シツ}蓆^{シツ} 兒^コ眠^ネ乾^{カン}裯^ト褥^ト

簟^{テン}席^{セキ}裯^ト褥^トふく^ハ兒^コふく^ハ人^{ヒト}れ^ニま^シて^ハふ^ハ
あ^ハ兒^コれ^ハ懐^ハろ^ニ用^{ヨウ}持^チろ^ク尿^ニ尿^ニを^ヲ利^リさ^シぎ^ハ
こ^ハあ^ハせ^ハじ^ハも^ハ母^ハハ^ハ苦^クし^ハむ^ハ色^{シキ}も^ハあ^ハく^ハ濕^{シツ}
ろ^ハか^ハこ^ハハ^ハ我^ガが^ハま^ハり^ハ軋^ハけ^ハろ^クこ^ハこ^ハハ^ハ兒^コと^ハ卧^ハ
さ^ハせ^ハ起^キて^ハハ^ハ尿^ニを^ヲや^ハろ^クこ^ハも^ハ泣^ナて^ハハ^ハ乳^ニを^ヲの^ハこ^ハ
笑^ハて^ハハ^ハじ^ハこ^ハや^ハう^ハう^ハつ^ハた^ハ母^ハハ^ハい^ハい^ハを^ヲあ^ハこ^ハ

こ^ハや^ハか^ハを^ヲ

兒^コ睡^{スイ}正^{セイ}安^{アン}穩^{ウン} 母^{ハハ}不^フ敢^{カン}伸^{シン}縮^{シュク}

兒^コハ^ハ安^{アン}穩^{ウン}一^ハ睡^{スイ}て^ハカ^ハき^ハど^ハも^ハ母^ハハ^ハ敢^{カン}て^ハ伸^{シン}縮^{シュク}
と^ハて^ハ才^{サイ}う^ハこ^ハ兒^コも^ハ次^ジ殿^{テン}ち^ハれ^ハも^ハの^ハこ^ハや^ハ
づ^ハこ^ハ心^{シン}し^ハて^ハれ^ハろ^ク散^{サン}を^ヲち^ハて^ハふ^ハせ^ハぐ^ハ意^イ
こ^ハこ^ハあ^ハり^ハか^ハこ^ハこ^ハ意^イ母^ハハ^ハ思^シゆ^ハえ^ハく^ハ忘^{ワスレ}
は^ハな^ハこ^ハこ^ハあ^ハ

全身在臬穢

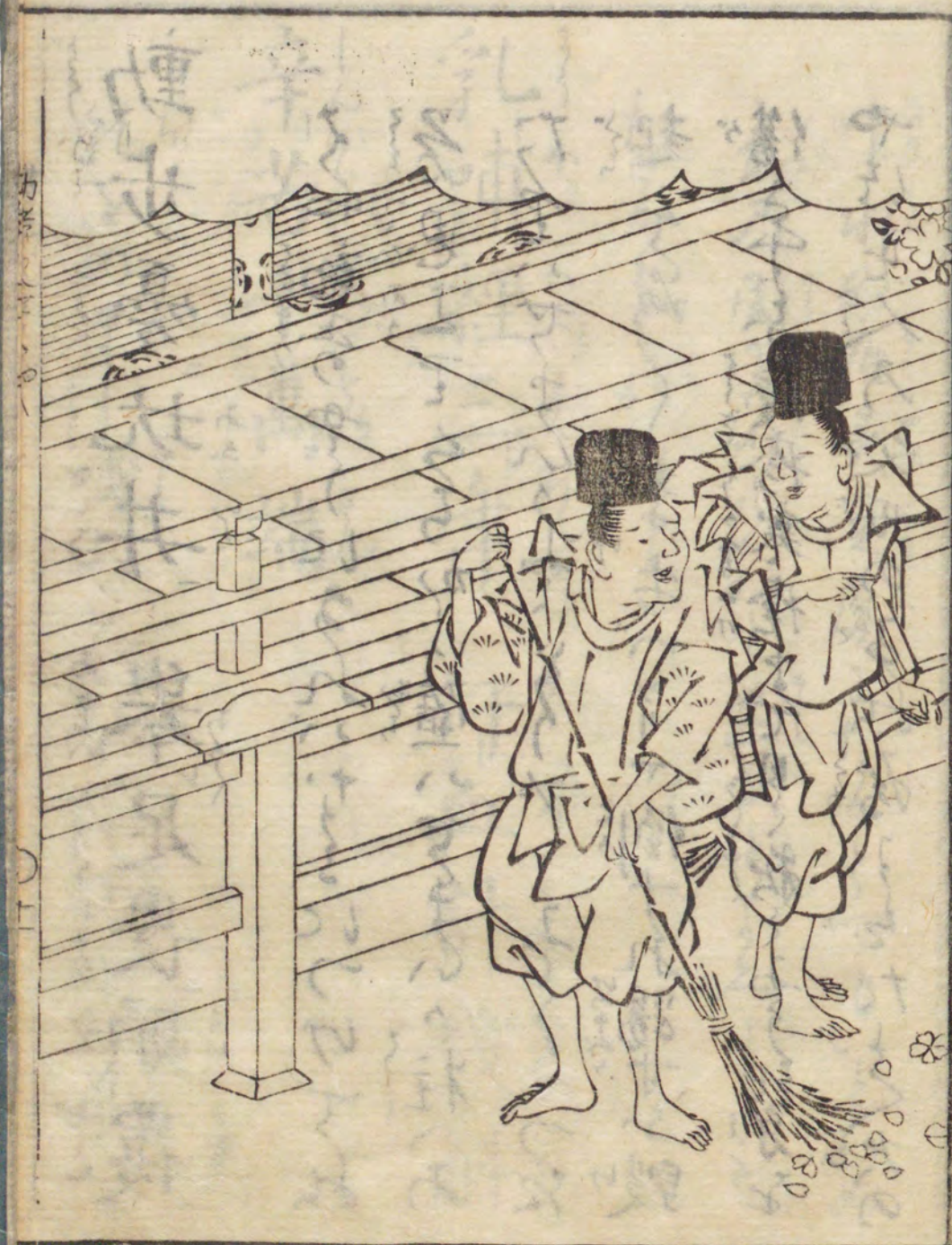
不暇思沐浴

母ハ全方小帯之解ニモ臬穢トモ
さいさい禪一起臥ニ誘ハ所謂無常
それニ屏モ進クハ浴ノ沐ハ暇ニモ
夏乃天ハ暑ニ成志ハ敬ニ此朝モ多ク寸

横簪與倒冠

形容不顧屋

横簪倒冠ハかんざしとちくーさうけふふ
るうな容ニハ醜抗すけろも髪由の
も何乃いともも啼兒をまうーいうたれ
英ーて悪ーに婦女も兒と一人位る
う五後緑れ儀も垢やうれ丹毒の唇と
澡軋うる墨画の松ニ似てもふぬ我より
なりれらうーかていそぐさ水子れ
世活ハ火ふつる晨々昏々てやれせも



動歩憂坑井

舉足畏顛覆

さや初あやにふればなるにつけても
方思上とるちか随ハせまい柱あ
たをハせやうやうくみうつ死
起そ海くき歩べりや倒すれ踢す毀
傷さふ瘡疹寒瘡をて目くおふう記方を
やは止人乃父母の子れ病うた火の

中水の底炎豆腐にならとていといぬ
意乃周あぬとまふとふも
じぢぢぢか邪

乳哺經三年汗血計幾斛

辛苦千萬端

乳とのちー哺ふとながれ月日三年と

うふ須^{そま}廣^{ひろ}あて明^あ石^{いし}くくしてひくす
に成^{せい}長^{ちやう}正^{せい}成^{せい}引^ひのぼせやうに思^{おも}ふそ間^ま
母^{はは}乳^ちを乳^ち乳^ち即^{すなはち}血^ち肉^{にく}の化^{くわ}する所^{ところ}
まきど母^{はは}の汗^{あせ}と血^ちをまきどて幾^い解^{かい}
も知^しる飲^のつくと毛^け布^ふれ白^{しろ}線^{せん}々々
くー兒^こ乃^のこふや辛^{しん}苦^くすれその
いふくちと千^{せん}美^み端^{たん}とてくせふ
指^{ゆび}もたさるるをー

